

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 2月25日

【評価実施概要】

事業所番号	0390900025
法人名	社会福祉法人 室根孝養会
事業所名	孝養ハイツ グループホーム
所在地	岩手県一関市室根町折壁字向山67番地3 (電話) 0191-64-3923

評価機関名	
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター3F
訪問調査日	平成21年1月15日
評価確定日	2月25日

【情報提供票より】(20年12月22日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 19 年 3 月 1 日
ユニット数	1 ユニット
職員数	9 人
利用定員数計	9 人
常勤 8 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 8, 1	

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋造り
	1 階建ての 1 階 ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	12,900 円	
敷金	有(円)	有りの場合	無	
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000 円	

(4) 利用者の概要(12月22日現在)

利用者人数	9 名	男性	5 名	女性	4 名
要介護1	4 名	要介護2	2 名		
要介護3	2 名	要介護4	- 名		
要介護5	1 名	要支援2	- 名		
年齢	平均 79 歳	最低 68 歳	最高 86 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	一関市国民健康保険室根診療所、一関市国民健康保険室根歯科診療所
---------	---------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

室根山を北に望み、国道284号を南に約1キロ小高い丘に、社会福祉法人室根孝養会のグループホームで開設2年目と新しい。市からの委託で短期入所生活介護施設を含め5つの施設が広い敷地に建てられており、渡り廊下で室根診療所にも通じている。利用者は男性が5名女性が4名である。職員も20代~50代と幅があり対応が自在に出来る利点がある。訪問当日は小正月で、繭玉作りを利用者と職員が笑いながら飾り付けている様子は、和やかで、ほほえましく日ごろの様子が見て取れた。介護度が比較的軽い方が多く、散歩、入浴も見守りの対応で過ごしている。職員の笑顔で暖かい気持ちになった。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価では7つの項目に○印(今後の課題がありと)が付いたが、今回の自己評価では17の項目に○がついていた。2年目となり、もっと出来るのではないかと、今年度は計画をしたい、と考えた結果のあらわれではないかと思うが、管理者は法人と事業所との間で試行錯誤しながら利用者目線で日々の支援をしている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、職員を半分に分けて行った。運営推進会議にも提出して目を通していただき、自己評価をすることで職員も日頃の介護の見直しのきっかけとなった。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	参加者の都合で今年度4回の開催となっている。家族からの意見は良く出るが、委員さんからの意見は少ない。広く意見や協力をいただく為にも広範な(消防・警察・民生委員・老人クラブ)方々の参加をお願いする方法もある。今後の取り組みを期待したい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	意見箱の設置はされていないが、面会時や行事参加の時を捉えて様子を伝えたり、意見の聞き取りをしている。利用者担当の職員からは家族に電話での連絡は頻繁に行われている。ゆくゆくは家族に対してホーム単独の「ホーム便り」の発行も考えて欲しい。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	ホームが小高い丘にあるため近隣の方の来所は多くない。デイサービスの利用者が訪問にきたり、こちらから出かけたりして交流を図っている。敷地内の施設との交流が主である。今後は移動手段の都合がつかず時は、外出等の計画をもっとして欲しい。法人の行事には近隣の方々の参加は、よく見られる。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の共通理念を掲示してある。ホーム独自の理念は運営方針に明示されてあるが、掲示はされていない。事業所としては介護の方針を掲げて職員の意識統一を図っている。今年度は理念の見直しを計画し、ホーム独自の理念の作成を計画している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	介護経験の長い職員が多く、日常の業務は円滑に行われている。法人の理念に添って笑顔を絶やさず、管理者、職員共日々の取り組みをしている。	○	理念の見直しが計画されていることから、職員間で話し合いを重ねて作成をし、常に理念を共有する体制を確立することを期待したい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームは小高い丘にある為、近隣の方が訪問することはほとんどない。法人内の特養やデイサービスに出かけたり交流はある。自治会と法人協同の夏祭りに参加をした。保育所の年長児11人が芋掘りに来所したりと交流の輪が広がってきている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	法人の中のホームとしてここに至るまでに管理者、職員共苦勞をされたと感じる。今回の自己評価は前半を管理者が、後半は職員が記入して提出に至ったが、まとめの話し合いはされていない。前回の外部評価の結果については、全員で回覧をして共有をしている。	○	自己評価は職員全員で行い結果を全員で検討することにより、評価の意義と理解が深まるものと思われる。来年度に向けて、自己評価の方法の検討を期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価の報告は行っている。委員の家族からは意見が出るが、他の委員からは聞かれない。区長さんの声かけで法人と地区の合同夏祭りを開催できた。「認知症」の理解を広げるための話し合いも始めている。	○	推進会議の発案で行事が出来ることがあり、委員の幅が広がれば、意見も出やすくなり又協力も得られやすいと考える。委員の選考(消防署、警察、民生委員、老人会、婦人会)に工夫を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	広域合併により行政との交流が少なくなっている。推進会議の委員に室根支所の福祉係長さんがいるが、法人の中で指導を受けたり助言を受けたり出来るので、行政とのかかわりまでの案件は少ない。	○	室根支所とは、装具についてや、インフルエンザ予防接種料金等について相談をしている。福祉に関する情報を得たり、今後困難事例等について助言を受けるうえで市との連携を強めることを期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時に近況を報告したり、小遣い金が不足した時に電話で会話をしたり、通院報告で家族と連絡を取っている。家族から意見や苦情は聞かれていないが、定期的に家族の元に報告をすることにより、家族はより安心出来るものと思われる。		現在、ホーム独自の広報は無いが、今後家族に近況報告を兼ねた広報作成を検討している。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの意見や苦情はない。無いことに安心せず、家族の気持ちを汲み取って聴く努力を続けて欲しい。	○	認知症の家族をお願いしているから言いづらいと考える家族も居るのではないと思われる。会話の中から家族の思いを汲み取る工夫を続けることを期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内異動で4月に1人、6月に1人離職があった。グループホームは他と比べて異動を最小限に留めている。異動や離職の理由を理解できる認知度であることがダメージを受けないことに繋がっている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム協会(県・ブロック)の研修には出来るだけ参加をしている。不定期に法人の研修がある。今年度は救命救急の研修があった。資格取得の相談や助言は行っている。	○	前年度の研修を参考に年間の「研修計画」を立て、希望する研修に参加しやすい体制を作ることを期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の2法人(千厩、川崎)全員で交流会を年1回行っている。研修の利点は大きく職員のスキルアップにも繋がっていくことを考え、今後職員同士の交換研修の実施を予定している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居になるまで見学を2~3回していただいたり、ホームからも自宅を訪問して交流を持ち、納得して入居に至っている。入居を済ませていた方も6ヶ月くらいで落ち着きホームでの生活を楽しんでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の気持ちを第一に考えて接している。その日の気分や体調を考慮してゆっくりと会話したり、寄り添いながら見守りをしている。担当の職員が決められており、変化があるときは担当から家族に報告をしている。生活歴を活かした会話を引き出すように心がけ、教えられたり、笑ったりと和やかである。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	通院介助、外出は担当職員と出かけられるように配慮し、会話から意向の把握に努めている。会話が苦手の利用者には家族の協力を得て援助をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	面会の多い家族には介護計画の見直し、変更の説明は可能であるが、遠方の家族さんには、ホームからの提案で、了解をいただくケースが多い。	○	定期的に様子を伝えることにより、家族の意見が出てくることが考えられる。利用者が良い介護を受けることは家族にとっても喜びであるので、家族の意見や関係者の声を聞くことを期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直し、変更については担当者を中心に行われ本人、家族の意見は少ない感じである。家族への説明に時間を掛けて現状にあった決め細やかな介護計画を立てることを望みたい。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院介助(ホームのかかりつけ医)、なじみの床屋へ付き添い、地区の花壇の草取り、ドライブ等計画には無いことでも、本人の希望に近づくように柔軟な支援をしている。神経科への通院は家族と担当職員及び管理者が同行している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療連携体制になったことで、医師との連携が良くなり、専門外の分野には、紹介状を書いて頂き、迅速な対応が出来るようになった。毎日、治療の必要な利用者が1名おり、特別養護老人ホームの看護師が来所して対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	平成20年6月医療連携体制の説明をした時に、それぞれの家族に、利用者の終末期についての考え方を聞いて同意をいただいている。大方の家族は病院へ移転させたいと考えているが、寝たきりになった時は法人の「特別養護老人ホーム」もあると伝え、方針の共有を図っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者に男性が多いこともあり、プライバシーには特に配慮をしている。排泄介助も本人だけに分かる様に気を配り、居室に入る時も必ずノックをしている。言葉掛けも年長者に対して失礼の無い様、配慮がされている。ケース記録等は事務室に保管してある。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームとして1日の流れはあるが、お天気や、利用者の体調を見ながら対応している。体重が増加傾向の方もあるので、出来るだけ体を動かす工夫をしている。天気が良いと散歩、庭掃除、雪がない時は畑仕事など、思い思いの過ごし方をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い出しに同行したり、収穫、調理、盛り付け、後片付けと出来る範囲で行われている。当日は、小正月で赤飯、刺身、潮汁、おでんとご馳走であった。繭玉飾りの下で和やかに食べる姿が見られた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	それぞれの希望に沿って入浴の支援をしている。あまり入浴をしたがらない方には、誘導して週2回はお風呂を楽しんで頂いている。車椅子利用の方は、2人体制で支援している。入浴後は必ず着替えをし、数人の方は就寝時パジャマに着替えている。汚れた衣類は洗濯機のところまで持ってくる習慣がついてきている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の経験と力を活かし役割を作って支援している。手伝っていただいた時には感謝の言葉を必ずかけている。同級生の床屋さんから元気な頃の様子を聞くことができ、職員は情報の共有をしている。法人の居酒屋喫茶が月1回あり、出かけて(ノンアルコールビール)楽しむ方もある。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は外に出て気分転換を図る。職員が付き添わなくても敷地内を散歩する方もあるが、安全には十分に気をつけて見守りをして欲しい。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の様子が事務室、リビングから見える作りで、センサーやチャイムは付いていない。夜間の安全に備えて、21:00~7:00は施錠をしている。丘陵地のため敷地はフェンスに囲まれてあるが、安全の見守りには気を付けている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	法人全体で年2回、昼夜を想定した避難訓練をしている。近隣の住民20人で構成された「あいあい会」協力団体と参加をしている。大きな地震の後でもあり、地震についての訓練をホーム単独で消防署の指導を受けることを計画している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分のチェック表を作成し情報の共有をしている。お粥が1名他は普通食である。献立は1週間単位で作成し、献立が重ならないように工夫されている。法人の栄養士より野菜類をもっと使うよう指導を受けたことがある。年1~2度献立チェックの指導を続けて欲しい。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関ホール、リビングには正月飾り、神棚にも新しい御札と季節や風習がわかる飾り付けがされている。繭玉ならし(みずき団子)が飾られて、昔を偲ぶことが出来る。室根山ハイクの写真が貼られて、笑顔の利用者が写っており会話が弾む。掘りコタツ、たたみの間、ソファと居場所を選ぶことが出来る。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていたソファ、タンス、人形、物置台、鉢花、家族の写真があり、家族と配置を決めて使いやすい工夫がされ居心地の良い居室が作られている。		